



新之助上布

近江から、麻のある暮らし 新之助上布

大西新之助商店

ごあいさつ

古くは鎌倉時代にまでさかのぼるという滋賀県湖東地域の麻織物業。長い間、品質の良い“近江上布”の生産地として栄えてきました。

当店も創業当時には、たくさんある麻の織り屋のうちの一軒でありましたが、時代とともに現在では数少ない、特に手織りの近江上布にあっては、わずかに数軒のうちの一軒となってしまいました。

和装から洋装へのライフスタイルの変化、また海外で生産される安価な服地に押され、国内の織維業、ことに当店のように着物地を主力とする織り屋がおかれる現状は、決して良いものではありません。

その中で何とか生き残るため、さまざまな試み、努力や工夫を重ねてまいりました。

当店としてはごく普通の取り組みであったことは、大胆で時にユニークだご評価頂けたことは意外でもありましたが、今回「知的資産経営報告書」として、目に見える形にまとめることが出来たことを大変うれしく思っております。

近江上布は、ここ近江の人と文化が育てた麻織物です。近江商人の“三方よし”ではありませんが、近江上布を受け継ぐことは、当店だけの努力や工夫だけではかないません。

当店だけではなく、地域全体を活性化できればという思いから、織りだけではなく周辺の加工なども出来る限り地元で行うことにこだわって、ものづくりを続けています。

大西新之助商店には最新の設備も、最先端の技術もありませんが、たくさんの方が集まります。

当店の力は人の力、ソフト面での力だと思っております。

本書をきっかけに、皆様に「新之助上布」の魅力を感じていただき、たくさんの良い出会いが生まれましたら幸いです。

大西新之助商店 店主

大西 實

【近江上布伝統工芸士 総合部門認定者】

【滋賀県「おうみの名工」表彰者】



当店の想い

お客様のニーズに沿ったものづくり

お客様とともに喜び・楽しむものづくり

ものづくりを通して地域全体の活性を

商品紹介

当店は、麻織物のオリジナルブランド「新之助上布®」を中心に、麻織物の **企画 製造 販売** を行っています。

新之助上布®

商標登録(第 4806665 号)

「新之助上布®」は、近江上布の技法(後述)を活かした麻織物の反物を、お客様にお手の届く価格でご提供し、麻織物を普段使いの商品にすることを可能にした、当店のオリジナルブランドです。

原則「一柄、一点」とし少量生産ながら、独自の色柄ノウハウでお客様の好みに合う色柄の生地をご提供しています。

【本麻ちぢみ着尺反物】



【綿麻ちぢみ着尺反物】



(2011年8月現在)

当店の生地による仕立て上がりのお着物、帯、ストール、本麻ちぢみ日傘などもございます。詳しくは「新之助上布®Webshop」をご覧ください。

⇒ <http://shinno-suke.shop-pro.jp/>



「新之助上布®」とは？ ～「近江上布」と「新之助上布」～

「近江上布」とは—

「近江上布」は、経済産業大臣指定の伝統工芸品(1977年3月30日指定)です。制作の際の技術・技法が厳格に指定されています※。指定内容は、糸の原材料・織り方・織機・仕上げ加工まで細部に渡ります。

着ていただけるものを作らなくては！

当然ながら技術・技法の一つでも沿わないものは、「近江上布」の名を冠して販売することはできません。しかし、技術・技法を忠実に守ってつくると、時間と手間がかかり、当然高級品になります。

それでは多くのお客様にとって、手が届きにくいものに…。この現状に疑問をもっていました。

「新之助上布®」ブランドを立ち上げ

そこで当店は2004年、オリジナルブランドとして「新之助上布」を商標登録いたしました。

これにより当店は、指定された技術・技法のみに縛られず、高級なものからお手に取りやすい値段のものまで、制作の幅を広げることができました。

また、当店は以前アパレル生地の下請を中心に行っている時期がありましたが、その時期には表に出なかった、つくり手たる当店の名が表に出るようになりました。

※「近江上布」の技術・技法 出典：日本伝統工芸士会 HP

【作り方】 紡績で極細く紡がれた糸に絣染めを施します。主な技法に「櫛押捺染(なせん)」と「型紙捺染」があります。

織り上がった反物に「シボ付け」という近江独特のちぢみ加工をし、丁寧に仕上げます。

【技術・技法】 1 生平(略)

2 絣織にあつては、次の技術又は技法により製織されたかすり織物とすること。

(1) 先染めの平織りとすること。

(2) かすり糸は、よこ糸又はたて糸及びよこ糸に使用すること。

(3) かすり糸のかすり及び耳印を手作業により柄合わせ及び耳合わせをし、かすり模様を織り出すこと。

(4) かすり糸の染色法は、「羽定規」を用いる「櫛押なせん」又は「型紙なせん」によること。

(5) しぼ出しをする場合には、「手もみ」によること。

このうち「型紙なせん」は、機械織りである「新之助上布®」でも活かされています。高級近江上布のかすりの味わいを楽しめる商品もあります。



「型紙なせん」

1. 近江上布の技術・技法の担い手

最初は私も素人でした。1973年に後継ぎとして戻って来て以来、先代・大西新之助(私の父:1997年勲六等瑞宝章受章)に手織り技法を学びました。また、機械織りに関しては、産地の他の織元に2年間どっぷり学んだこともあります。

現在、私は当地で13名存在している「近江上布・伝統工芸士」のうち、唯一の総合部門認定者(2005年認定)です。また、産地では手織りを実際に行える者が少なくなっており、当店を含め2事業者とも言われています。

2. 独自の自動織機活用技術

当店は、1985年から広幅のレピア織機を導入していますが、店主はこの織機の特長を最大限に活かす技術を持ち、低価格かつ独自性の高い色柄の反物を生み出しています。

広幅レピア織機について

当店の広幅レピア織機は、同時に3幅(3反分)織ることができるように改良した自動織機です。(最少ロットは9反～。)

この織機で織る技術自体は難しいものではありません。店主以外が使っても、織り上げることはできます。



織機活用技術

ただし、3反分の色柄に同じ横糸を通すため、生産する全ての色柄を使える柄(売り物にできる柄)にするためには、店主独自の技術と感覚が、活かされています。

全ての色柄がムダにならず、また完成までの時間も短くできるため、低価格でのご提供が可能になっています。

3. 洋服地づくりの経験からくる独自の色柄

当店の洋服地の下請中心だった時期があった事により、和装では余り用いられない色柄・技法の経験を積むことができました。

例えば、和装で用いられにくい色(例:原色)を使用していたり、経糸の色と緯糸の色を極端に変えての組み合わせをしたりすること等です。

「新之助上布®」は製織前に糸を最初から染めておく「先染め」でつくるため、経糸と緯糸の色の組み合わせをどうするかが大事なのですが、上記の経験を「新之助上布®」の色柄決定に取り入れています。

展示会等では、直接お客様よりご希望を承っておりますが、具体的に色柄のご指示をいただくこともあれば、イメージや「私に似合うもの」といった内容のご注文をいただくこともあります。

当店は、独自の柄の組み合わせや色使いで、それらにに応じております。

毎回、違う色柄を持参できることにより、お客様の展示会等にお越しになる楽しみや期待感の高まりにつながっていると自負しています。



「シャンプレー(玉虫)」

先染めの織物で、経糸と緯糸の色が違う場合、見る角度によって強調される色が違うため、玉虫色になること。



4. 想いでつながる心強いサポーター

展示会出展などを通して、私の想いに共感していただいた方から「事業サポーター」とも言うべき方々も生まれています。

藤岡育子 様

「新之助上布Webshop」の発起者です。現在も当店Webshopの運営を担当していただいております。



鈍色舎 近藤恭子 様

日本文化、伝統工芸品を現代の生活に蘇らせるため、商品企画、デザインコーディネート、販路の開拓を鈍色舎でおられます。当店に対しては展示会出展で大きな力をお貸しいただいております。



浦辺優子 様

当店店舗や「Webshop」にて販売しているシュシュ等の小物を制作していただいております。



竹ノ輪 竹村圭介 様

「日本伝統文化がもつところに優しい価値をとおして、心豊かな生活文化の実現に貢献する」が理念の竹ノ輪を主宰されておられます。展示会出展で大きな力をお貸しいただいております。



小倉奈夕子 様

東京出展の際に、展示場お呼び店主自身の統轄管理を行っていただいております。



稲枝青楽団の皆様

地元、彦根市稲枝地区の青年団(青楽団と呼称)。当店の生地によるふんどし制作企画を立案し、青楽団HPにて販売もしていただいております。



掲載させていただいた方のほかにも、多くの方々にサポートしていただいております。紙幅の関係上、掲載できませんでしたが、悪しからずご了承くださいませ。

当店の沿革

1951年	大西新之助により創業(個人事業)。手織の麻着尺や座布団地の絵柄企画・拵付けを中心に行う。
1973年	後継ぎとして大西實が事業に参加。
1976年	着物地からの転換をはかる。座布団・のれん等の制作に着手。
1985年	レピア織機を導入。アパレル(洋服地)との取引を開始。
1990年	大西實が代表者に就任。屋号を「大西新之助商店」とする。
1994年	(財)伝統的工芸品産業振興協会・伝統工芸士(製織部門)に認定。
1996年	東京での「大近江展」に出展。
2004年	「新之助上布®」を商標登録。直販重視へ戦略転換。
2005年	(財)伝統的工芸品産業振興協会・伝統工芸士(総合部門)に認定。
2010年	当店HP「新之助上布 Webshop」を公開。(株)コロプラと提携(コロカ提携店)。経済産業省・地域産業資源活用事業に認定。
2011年	『サライ』(小学館刊)6月号が当店を紹介。

当社が取り組んでいること

毎年の展示会出展へ

「つくり手が前に出てこそ」「下請仕事ばかりで良いのか」という問題意識と、「踏み出してみないと、良い商品なのか分からない」「種をまくことが大事」という積極性から、1996年の東京での展示会(大近江展)をきっかけに、出展を推し進めてきました。

当初は高級近江上布のみを出しており、展示会での売れ行きも芳しいものではありませんでしたが、オリジナルブランド「新之助上布®」が誕生して以降、

2011年出展歴

- ・日本橋高島屋「大近江展」2/24～3/1
- ・阿倍野近鉄「凄腕職人街」3/3～9
- ・松屋銀座「新之助上布展」5/11～17
- ・大丸札幌店「夏のよそおい 新之助上布 2011 札幌」5/25～31
- ・gallery 園「麻をまとう、涼の風 新之助上布展」6/17～21



心の交流を大切に

展示会は、お客様と直接言葉を交わし、ご意見を伺える大切な場とも考え取り組んでいます。

また展示会の際には、ご来場のお客様や事業サポーター様とともに、期間中は毎日と言って良いほど懇親会を行っています。店主とお客様が忌憚なく考え・意見を交わせる場であり、大切にしています。

「新之助上布®Webshop」

当店は2010年に「新之助上布®Webshop」を立ち上げ、また(株)コロプラが運営する携帯電話位置情報ゲーム「コロニーな生活」にコロカ提携店※として登場しているなど、Web上でも露出を多くしてきました。

これらを通じて、お客様には、当店の「作り手」「工場」という面だけでなく、「売り手」「小売店」としての面を認知していただき、安心感を持っていただいております。また、以前よりも年齢・性別に限らず。

※「コロニーな生活」「コロカ提携店」については、(株)コロプラHP(<http://colopl.co.jp/>)をご覧ください。

「制作と出展は五分五分に」～ものづくりを忘れない～

上のように当店は、ものづくりオンリーから、お客様の前に立つことにも力を注ぎできました。

しかし、当店はあくまでも「つくり手」です。そのことを忘れず、主として「上半期は制作・下半期は出展」と期間を区切って、メリハリをもって取り組んでいます(店舗・Webshopでは、年間を通じ販売しています)。

当店概要

会社名	大西新之助商店
所在地	滋賀県彦根市新海町字今屋敷前1125
創業	1951年(昭和26年)
資本金	個人事業
代表者	大西實
従事者	2名
TEL/FAX	TEL:0749-43-4434 FAX:0749-43-5616
Webサイト	http://shinno-suke.com/ http://shinno-suke.shop-pro.jp/ (Web shop)
E-mail	shop@shinno-suke.shop-pro.jp

借金が恐くて
上布が織れるか！

近江上布伝統工芸士

大西
實

■ 発行者

大西新之助商店 代表 大西 實

■ 作成支援者

行政書士 谷田 良樹 ・ 行政書士 中島 巧次

■ お問い合わせ先

大西新之助商店

〒521-1135

滋賀県彦根市新海町字今屋敷前 1125

電話 0749-43-4434 FAX 0749-43-5616

E-Mail shop@shinno-suke.shop-pro.jp

■ 発行

2012年3月31日

本パンフレットは、当店の「知的資産経営報告書」を元に作成したものです。「報告書」は経済産業省「知的資産経営ポータル」に掲載されておりますので、合わせてご覧いただければ幸いです。